

教職課程専攻大学生の剣道に対する意識

— 剣道授業の学習ニーズの分析 —

A Study on the Consciousness to kendo of the college student of the teacher-training course Learning needs of the attendance students of kendo class

体育学部体育学科

平田 佳弘

HIRATA, Yoshihiro

Department of Physical Education

Faculty of Physical Education

岡山県立大学保健福祉学部

京林由季子

KYUBAYASHI, Yukiko

Department of Health and Welfare Science

Okayama Prefectural University

キーワード：剣道授業，大学生，学習ニーズ，剣道経験

Abstract :

The purpose of this study was to clarify the learning needs of a kendo lesson of the college student who majors in the gymnastics of the teacher-training course learns.

The subjects of this study were 30 attendance students of a kendo lesson. 28 persons' reply which carried out the reply by free description to the question of "something to study by the lesson of kendo" was analyzed using text mining.

As a result, It was shown that the contents of the reply have the feature by the existence of kendo experience. The words by which the contents of the reply of the group which is inexperienced in kendo are denoted characteristically were "kendo", "courtesy", and a "rule". In the group which is experienced in kendo by lesson of a junior high school and a high school, "lesson", "custom", and "capability" were characteristic language. In the group which is experienced in kendo by club activity, "instruction", "teaching", and "teacher" were characteristic language.

Thus, it was guessed that the learning needs for a college student's kendo lesson changed with existence of kendo experience. In a kendo lesson, it is important for a teacher to make the college student itself conscious of the learning target according to experience of kendo in addition to instruction adapted to the college student's skill.

Keywords : kendo class, college student, learning needs, kendo experience

I. はじめに

平成20年1月の中央教育審議会答申により，保健体育科における武道の指導を充実し，我が国固有の伝統や文化により一層触れることができるようにすることが重要であるとの見解が示され（中央教育審議会，2008，7（3）），その年の3月の中学校学習指導要領の改訂によって中学校での武道が必修化された（文部科学省，2008，第2章7節）。この中学校新学習指導要領は，平成24年度から完全実施され，現在では中学校1，2年生全員に保健体育の学習内容として「武道（柔道・剣道・相撲）」が必修化されている。

平田ら（2013）は，中学校における武道の必修化に伴う剣道授業の問題点を，指導者の不足，指導法の工夫・開発，剣道防具の不足・道場の不足，生徒の実態と教員数，体育年間指導計画の作成，剣道授業における評価方法の6項目に整理し，その解決方法を提案している。その提案には，制度上の問題，予算上の問題等ハードの部分も含まれるが，指導教員の授業内容の研究・工夫が最も大切であると考えられる。例えば，中学校学習指導要領では，技能，態度，知識・思考・判断の学習目標や授業で取り扱う基本動作や技が例示されているが，実際の授業の中で生徒たちにそれをどう伝えていくかが最も重要な部分といえよう。このた

めには、体育教員への剣道の研修や体育教員と剣道経験者（他教科の剣道経験者）のチームティーチングによる指導体制の工夫なども取り組むべき課題ではあるが、すべての体育教員が剣道授業を実践できるよう大学の教員養成課程における養成を行うことが最も基本となろう。しかしながら、現在の教職課程の学生は中学校の武道必修化を経験していないため剣道に触れたことがない学生も多いと考えられ、その養成は移行期である現在の早急な課題と考えられる。

そこで、中学校の武道必修化に対応した大学の教職課程における剣道授業のねらいや内容について検討するため、学生の剣道授業への学習ニーズや剣道に対する意識を明らかにする必要がある。

II. 目的

本研究では、大学の教職課程で体育を専攻する学生の剣道授業の学習ニーズについて、剣道経験の有無との関連においてその特徴を明らかにすることを目的とする。

III. 方法

1. 調査対象

A大学教職課程体育専攻学生のうち実技科目である「剣道 I（基礎）」の受講生30名を調査対象（1年生29名、3年生1名）とした。

2. 調査内容

剣道の意識に関する調査項目は以下の3項目である。

- ①剣道経験の有無
- ②剣道の授業で学びたいこと（自由記述による回答）
- ③剣道に対する意識 32項目（5段階の評定尺度による回答）

調査は2013年9月の授業初回に実施した。なお、剣道に対する意識については授業最終回にも実施し、受講前後での意識の変容を検討する予定である。

3. 分析対象と分析方法

本研究では、調査内容のうち「剣道の授業で学びたいこと」に回答のあった28名の自由記述の回答を分析対象とした。分析には、テキストマイニングソフトであるKHCoder（Ver.2.Beta.30e）（樋口ら、2004）を

利用し、総出語数の出現頻度を求めると共に、剣道経験の有無による剣道の学習ニーズを特徴付ける語の抽出を行うための関連語検索を行った。

4. 「剣道 I（基礎）」の概要

「剣道 I（基礎）」は、剣道の礼法や基本動作を身につけること、剣道を指導する際の留意点や安全性について理解することを目的としている科目である。授業内容は実技を中心とし、服装、用具、礼法（姿勢、正座）、基本動作（竹刀の構え方と納め方、足裁きと素振り、基本の打突、面打ち、小手打ち、胴打ち、切り返し、など）、互角稽古・試合について学習を行い、将来、体育教員として剣道の授業が実践できるようになることを目指している。

IV. 結果及び考察

1. 受講生の剣道経験について

調査対象者の剣道経験の有無を表1に示す。部活動で剣道を経験している受講生が最も多かった。中学校での剣道授業は必修化になる前であったため中学校での授業経験者は最も少なく、また、高校の選択種目としても剣道授業の経験のある受講生は少ない。このように、部活動において選手として剣道を追求してきた経験をしている受講生は多いものの、中学校・高校で剣道授業を経験したことのある受講生は少なく、体育教員が実践する剣道授業のイメージについては希薄な受講生が多いと考えられた。

表1 剣道経験の有無

	男	女	計	
剣道経験無し	7	0	7	
剣道授業の経験有り	中学校	2	0	2
	高校	4	0	4
剣道の部活動経験有り（授業経験含む）	10	5	15	
	23	5	28	

2. 剣道授業の学習ニーズ

(1) 総出語数の特徴

「剣道の授業で学びたいこと」について自由記述の回答における総出語数は346語であった。表2は出現回数の多い語について上位10語を示したものである。最も多く出現している語は「学ぶ」、次に「剣道」であるが、続いて「礼儀」「授業」「指導」と学びたい内容を示すと考えられる語が続いている。具体的記述例としては、「礼儀」については、「礼儀などを学びた

い”「礼儀作法をもう一度見つめ直したい”など、「授業」については、“授業をすることを頭に入れて”“授業の中で自分が先生になったらどう教えるか”など、「指導」については、“教員になるに当たっての剣道の指導方法を”“指導者として生徒にしっかり教えられるように”などであった。

(2) 剣道経験の有無による学習ニーズの特徴

剣道経験の有無による回答の特徴を見るために、分析対象を「剣道経験無し」群、「剣道授業（中学・高校）のみ経験有り」群、「剣道の部活動経験有り」群の3群に分け、各群の回答の中に特徴的に現れる語を関連語検索により抽出した（表3）。また、各群の回答内で見られる語の強い関連を、語と語を結ぶ線として描画したものが、図1-1～図1-3に示した各群の共起ネットワークである。

「剣道経験無し」群の回答を特徴的に表す語としては、「剣道」「礼儀」「ルール」が、「剣道授業（中学・高校）の経験有り」群では、「授業」「礼法」「能力」が、「剣道の部活動経験有り」群では、「指導」「教える」「先生」が抽出され、剣道経験の有無や程度により回答内容に特徴があることが示された。

「剣道経験無し」群では、剣道の専門用語をまだ知らないため、「礼儀」「ルール」といった一般的な用語で表現しているが、「剣道」の「ルール」や「基礎」を自らが学びたいという学習ニーズが強い傾向にあるといえる。一方で、剣道の「礼儀」を学びたいとする特徴も見られ、剣道のイメージとして礼儀を重んじるものと捉えている傾向がうかがえる。「剣道授業（中学・高校）のみ経験有り」群では、「礼法」や「基本」動作等の専門用語について多少の理解がある様子が見

られるものの、体育教員として剣道「授業」を教えることができるよう「能力」を上げたいという学習ニーズがあるといえよう。「剣道の部活動経験有り」群では、反則の定義や打突の技術などより専門的な技術の修得への言及も見られるが、「先生」になった時に生徒に丁寧に「教える」ことができるよう、安全に「指導」できるよう基礎基本をしっかり身につけたいとするなど、剣道指導の専門家になることを意識した学習ニーズを有している点に特徴が見られる。しかし、いずれの群とも基礎基本を重視している点は、中学校武道必修化により、体育教員になった場合には剣道を指導する可能性があることを学生も意識していることの現れとして捉えることができよう。

V. まとめ

本研究では、大学教職課程体育専攻学生の剣道授業の学習ニーズについて分析した。教職課程における剣道授業においては、まず正しい基本動作を身につけることが最も大切であるが、受講生の学習ニーズとも一致することが確認できた。しかし一方で、剣道経験の有無や程度によりその学習ニーズには特徴があることも示された。剣道授業を展開する上で、初心者はもちろん、経験者にもその学生の技能に即した声かけ（指導）をする必要があるが、学生自身にも、剣道初心者には基本動作や技の獲得を、剣道指導の専門家を目指す学生には授業の中で生徒たちに基礎基本をどう伝えていくかという学習目標を意識させる工夫が必要となろう。さらに、剣道授業での学習の積み重ねに加えて、中学校・高等学校の体育館や用具等の体育環境は

表2 抽出語リスト

抽出語	出現回数
学ぶ	11
剣道	10
礼儀	7
授業	6
指導	5
基礎	3
基本	3
教える	3
経験	3
礼法	3

表3 剣道経験の有無による関連語検索

剣道経験無し	剣道の授業経験有り	剣道の部活動経験有り
剣道 .267	授業 .273	指導 .222
礼儀 .231	礼法 .222	教える .177
ルール .222	能力 .125	先生 .118
基礎 .200	高校 .125	身 .118
学ぶ .177	精神 .125	教員 .118
戦える .111	大学 .125	付ける .118
良い .111	落ち着く .125	作法 .118
試合 .111	強化 .125	基本 .111
対等 .111	少し .125	見つめる .059
いろいろ .111	動作 .125	場外 .059

数値はJ accardの類似性速度

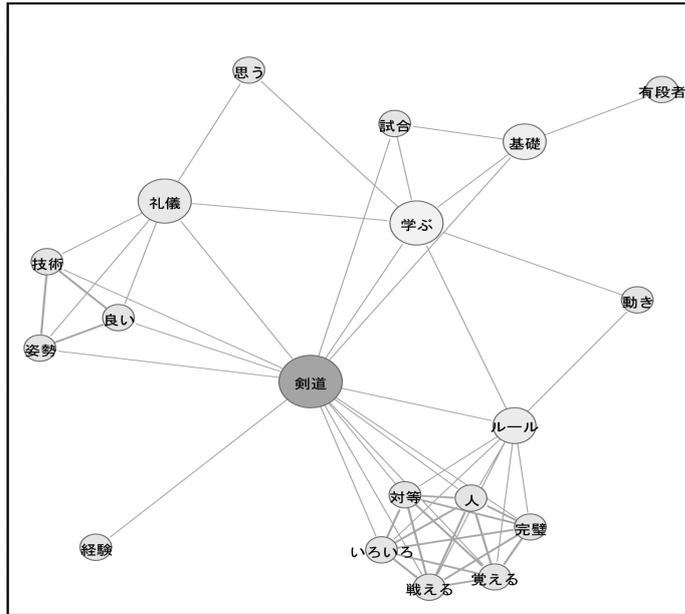


図 1-1 剣道経験無し群の共起ネットワーク

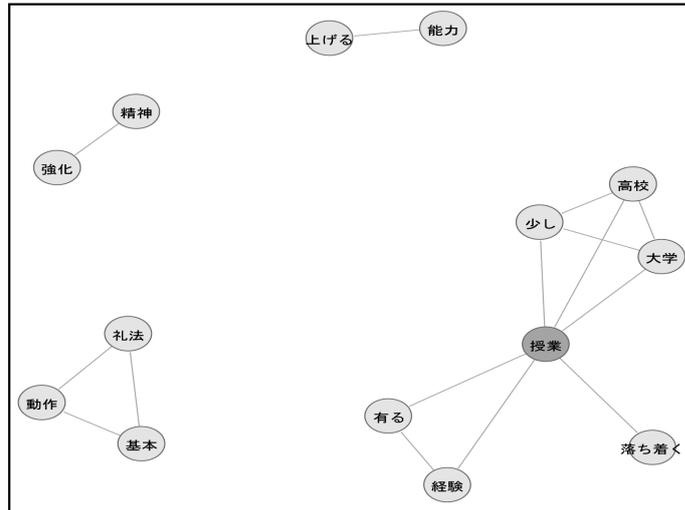


図 1-2 剣道の授業のみ経験有り群の共起ネットワーク

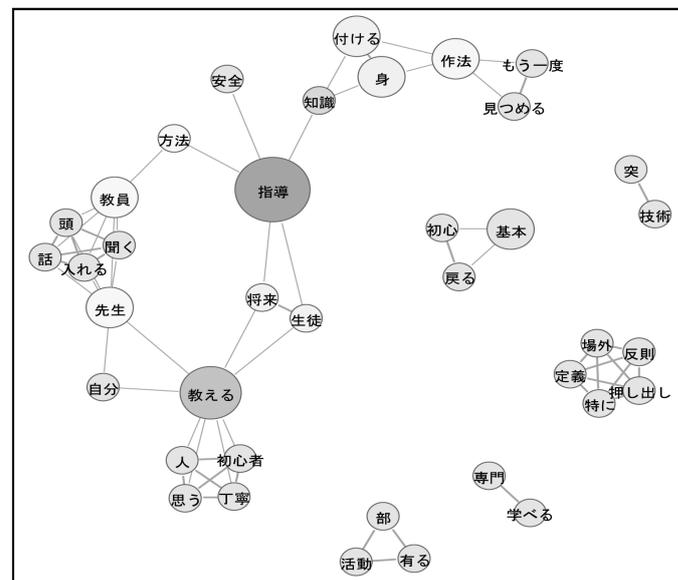


図 1-3 剣道の部活動経験有り群の共起ネットワーク

様々であることや、生徒の実態も多様であることなども理解し、教育実習生や体育教員として剣道授業を組み立てることができるようになるためには、関連する講義・演習科目と関連をさせて学生の学びが深まるよう指導することも必要となろう。

今後は、学生の剣道授業の学習ニーズについてはさらにデータを積み重ね検討するとともに、剣道授業の経験による剣道に対する意識の変化についても分析を進め、大学の教職課程における剣道授業のねらいや内容について精査していきたい。

引用・参考文献

- 中央教育審議会 (2008). 幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について (答申).
- 樋口耕一 (2004). 「テキスト型データの計量的分析 - 2つのアプローチの峻別と統合 -」, 『理論と方法』(数理社会学会) 19 (1), 101-115.
- 久島典子 (2012). 安全で楽しく効果的な指導法 剣道③, 月刊「武道」, 2012年10月号, 132-140.
- 平田佳弘・櫻間建樹・朝岡正雄 (2013). 高校の授業実践を通して見える中学校における武道必修化の問題点, 環太平洋大学研究紀要Vol.7.
- 糸岡夕里・日野克博他 (2011). 中学校における「剣道」の授業実践: 生徒の剣道に対するイメージに着目して, 愛媛大学教育学部紀要, 58, 137-144.
- 岩切公治 (2012). 高校生に対する剣道の意識調査 - 若潮杯争奪武道大会(剣道の部)を対象に -, 国際武道大学研究紀要, 27, 55-61.
- 木原資裕・今井三郎 (1978). 正課体育「剣道」受講生の剣道に対するイメージについて, 大学体育研究 5, 43-50.
- 文部科学省 (2008). 中学校・学習指導要領解説 (保健体育).
- 文部科学省 (2009). 高等学校・学習指導要領解説 (保健体育).
- 文部科学省 (2010). 学校体育実技指導資料第1集「剣道指導の手引き」参考資料 新しい学習指導要領に基づく剣道指導に向けて.
- 中村民雄 (2010). 中学校武道必修化について - 我が国固有の伝統と文化をどう伝えるか -, 武道学研究, 第42巻, 第3号, 1-9.
- 中村民雄 (2011). 中学校武道必修化について - 武道の礼法 -, 武道学研究, 第43巻, 第2号, 1-11.
- 成尾進 (2010). 剣道授業の実践報告と必修化の課題,

月刊「武道」, 2010年12月号, 98-107.

- 小田佳子 (2012). 武道必修化を踏まえた剣道授業の指導力育成に関する検討: T大学教職履修学生の武道(剣道)の授業評価から, 東海学園大学研究紀要. 自然科学研究編 (17), 11-23.
- 追田靖之 (2009). 剣道授業の実践報告と必修化の課題, 月刊「武道」, 2009年5月号, 124-133.
- 鬼澤佳弘 (2009). 中学校武道の必修化, 武道学研究, 第41巻, 第3号, 35-41.
- 山上眞一・藤原章司・宮本賢作 (2012). 武道必修化に対する中学校保健体育科教員の意識について - 特に剣道授業に関して -, 武道学研究, 第45巻別冊, 74.
- 山田博子 (2009). 剣道授業の実践報告と必修化の課題, 月刊「武道」, 2009年12月号, 104-116.
- 全日本剣道連盟 (2008). 剣道指導要領.